

### 昨年度の総会報告

平成二十四年度の総会は、昨年八月四日(土)午後五時より、一宮スポーツ文化センターで行われました。

七回生・二十七回生を中心として、総勢百十五名の方々に参加していただきました。ご多忙にもかかわらず、歴代の校長先生をはじめ、懐かしい旧正副担任の先生方、現職員の先生方にもご出席いただきました。

総会では、平成二十三年度の事業報告・会計報告、役員改選、平成二十四年度の事業計画・予算案の審議と、滞りなく議事を進めることができました。総会でもご報告させていただきましたように、同窓会費及び同窓会報郵送料カンパでは多くの方にご協力いただき、重ねてお礼申し上げます。

懇親会は、学年同窓会を担当した七回生・二十七回生に新会員の四十六回生を加え、若々しい雰囲気の中で盛り上がりました。各テーブルでは、昔話に花が咲き、時が経つのも忘れて旧交を温めることができました。懇親会を締めくくる校歌斉唱も恒例になり、名残りが尽きないままお開きとなりました。

本年は八回生と二十八回生の学年同窓会を開催させていただきました。多数の方が参加していただければと考えております。なお、担当学年にかかわらず、クラス会や部活動のOB会の場合でも同窓会総会を大いに活用していただけたら幸いです。

今年度の総会に、是非皆様お誘い合わせの上、気軽に参加していただきますようお願い申し上げます。

### 東京支部会の報告

37回生 古川 直樹 (2003卒)

2012年度の、東京一宮西高校同窓会は、12/15(土)に東京は新宿にて開かれました。初冬の肌寒さが増す中ではありましたが、総勢約20名程度の関東地方在住の卒業生の方々に、ご出席いただき盛況のうちに幕を閉じました。

一次会/二次会ともに、例年通り新宿の西口で行い、旧友や新たに知り合った同窓生の方々の交流を温めました。

西高からは、校長先生/丹下先生にはるばる東京までお越しいただきました。現在の西高や一宮の様子についてもご報告いただき、卒業生の皆様も懐かしいお話に耳を傾けていました。

本会は、毎年参加していただける常連の方々のお顔もあれば、今回初参加していただいた方、また久しぶりに顔を出していただいた方と、世代を超えていつでも気兼ねなく参加できる会です。

自分自身も、東京に来て早10年近くたちますが、毎年自分と同じように、東京で頑張っている先輩や後輩の方々の近況をうかがうことが、それが励みになりたくさんのエネルギーをもらっております。

良い伝統を毎年絶やさず、下の世代に向けても続けていきたいと考えさせら



れます。

今年度も、11月から12月にかけての開催を予定しております。非常にオープンな会になっており毎回参加の方もおられます。関東に進学した大学生の方も含め、関東圏在住、東京に立ち寄られる機会のある卒業生の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

東京支部連絡先  
iwh-tokyo-reunion@yahoo.co.jp  
一宮西高校同窓会メールアドレス  
dosokai@ichinomiyanshi-h.aichi-c.ed.jp



### 「西高」はどんな学校か?

教頭 祖父江 泰浩

この春の人事異動で美和高等学校に転勤になりました。教頭として五年間勤務した一宮西高等学校はどんな学校だったのでしょうか。勤務しているときは自分の生活そのもので、客観的に見ることは難しかったのですが、離れてみてあれこれ思う毎日です。

中学生向けの体験入学を、西高では「西高見学会」と言っています。中学校を基本とした小さなグループ単位で、説明と校内見学を行っています。そして同じ中学校出身の本校生徒が、「先輩」という立場で中学生に説明と激励をしてくれています。これこれを中学生に言ってほしいと、私から在校生に頼んだことはありません。ど

の生徒も自らの言葉で、西高を語ってくれました。その中で、こんなことを言った生徒がいました。

「西高では勉強が一番大事です。でも部活動も一番大事です。そして学校行事も一番大事なんです」——当時まだ西高勤務一年目の私は、在校生のこの言葉に本当に驚きました。生徒が言ったこの一言は、西高の特色をよく言い表していると思います。

西高は欲張りな学校ですね。部活動も十分楽しみたい、しかし最後には進路希望も実現したい。西高は、すべての願いを叶えたいと生徒が真剣に思い、日々頑張り続けている素晴らしい学校です。

そして西高を理解する上で一つ大切な言葉が「誇り」だと思います。西高では「プライド」と言わずに「誇り」と言います。これは平成24年度の体育祭の時、群団長が述べた選手宣誓の言葉です。「私たちは西高の生徒であることの誇りと支えて下さった方々への感謝の気持ちを胸に、競技は力強く、応援は華やかに、群団で団結し、体育祭の成功のために持つていく力を全て出し切って、完全燃焼することを誓います」——この選手宣誓を聞いたときは、思わず目頭が熱くなりました。

このような場面でも、西高生としての「誇り」を口にしてくれる生徒に感動してしまいました。西高生にとって「誇り」というものは、それはそれは大切なものなのです。それは「誇り」が、生徒のやる気の源になって学校全体に活気をもたらす。毎年部活動も、学校行事も、そして進路実現でも成功をもたらしているのだと思います。

私は、西高が大好きでした。オールマイティに素晴らしい西高が

大好きでした。部活動の時の、生き生きとした姿やひたむきさ。学校行事の時の、普段は見ることができない生徒の違った顔や、自ら考え自ら行うその姿勢。授業中の、真剣なまなざしや、すぐに反応してくれるレスポンスの良さ。言い出したらきりがありません。生徒のために一生懸命やってあげたいと思う以上に、生徒諸君の方から一生懸命やりたいという熱意が伝わってきました。生徒のその思いに、いつも私は突き動かされてきました。思えば夢のような五年間だったと思います。

西高に関係するすべての皆さん、大変お世話になりました。西高で過ごせて、私は本当に幸せでした。何事にも一生懸命取り組むその「西高魂」が、これからもずっと続くことを願っています。私は西高を去り、西高は「前任校」になってしまいましたが、生徒の皆さんや卒業生の皆さんにとっては西高は真正正銘の「母校」になります。うらやましい限りです。是非西高生としての「誇り」を胸に、学校生活を、そして人生を送ってください。みなさんを、そして西高をいつまでも応援しています。西高と西高同窓会をますますのご発展をお祈りいたします。



### 西高での二十年

十五回生・教諭 吉田 一成

この度の人事異動で新川高校へ